

I エペソ5：21-33は、夫と妻の関係だけではなく、キリストと教会の関係を教えている大切な箇所。

キリストの花嫁として、主の教会の一員として、私達を待ち受けている姿を示す27節は素晴らしい。しかしもっと素晴らしい恵みが、30-32節に記されている。

それは「キリストと教会との神秘的結合」という驚くべき恵み！

私達が、結婚の意味が本当に分かるのは、キリストと教会の神秘的結合の教理を理解した時。

32節で「この奥義は偉大です」とある。それゆえ、祈りと御聖霊だけが与えて下さる霊的な理解力が与えられなければ理解は出来ない。

II 「キリストと教会の神秘的結合」という偉大な奥義を理解する為に、いくつかの事を見て行こう。

「教会はキリストのからだ」という真理。

「私たちはキリストのからだの部分だからです」：30。

教会は、キリストの一部分。体の各部分が体の一部であり、体の中の頭が中心的な存在であるように、キリストは教会のかしら、頭。

「また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」1：22, 23。

4：15, 16でも言われている→

「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです。キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります」。

ここにも神秘的結合が教えられている。

更に本日の30節で「私たちはキリストのからだの部分だからです」とある。

最も信頼できる写本には、

「私たちは、キリストのからだ、すなわち、彼の肉と彼の骨の部分だからです（創世記2：23参照）」とある。これは、キリストと私達の関係、結合が、命のみなぎった有機的な結合を確信させる。

私達が、キリストの霊的な肉や骨をとり、キリストのからだ、すなわち、主の霊的な肉と骨の部分とされる。

アダムはエバについてこう言った。

「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉」（創世記2：23）。

パウロは、明らかにアダムとエバの類比をキリストと教会に当てはめている。それ故、教会のことを、

「私たちは彼のからだの、すなわち、彼の肉の、彼の骨の部分です」と言う。

もっと奥義の意味を理解して行きたい。その答えは、女が男から取られたという事。

なぜエバは、「女」と呼ばれるのか。それは、女が「男から取られたのだから」（創世記2：23）。

従って、女の定義は「男からとられた者」という事になる。それが「女」という言葉の意味。

神が男を造られた後、言われた。

「人がひとりであるのは良くない（キリスト者もひとりであるのは良くない。だから、私達は、教会に所属し、互いに交わり祈り合い支え合う）。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう」（創世記2：18）。

動物が造られたが、相應しい助け手ではなかった。

人は特別な被造物であり、動物から進化したものではない。人間だけが、神のかたち（神の御性質、神と人と人格的な交わりができる）に似せて造られた。アダムは、鳥や動物の中に深い交わりが出来る相應しい助け手を見つける事ができなかった。

そこで、神は

「深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた」（創世記2：21-22）。

男は深い眠りに置かれ、それから創造の業がなされた。男の一部分が取り出され、それで女が造られた。

「この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです」：32。

教会は、どのようにして存在するようになったか。

神が第二の人、最後のアダム、ご自分のひとり子、愛する御子に対して十字架でなされた業の結果。

深い眠りがアダムに下った。深い眠りが御子に下った。主は霊を御父に委ね、息を引き取られた。

その御業から、教会が取られた。女がアダムから取られたように、教会はキリストから取られた。

女はアダムのわきからとられた。教会が出て来るのは、主の傷ついて血のにじむわきから。

「兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た」

ヨハネ19：34。

それが教会、花嫁の誕生の始まり。

「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された」（Iペテロ2：24）。

教会は「彼の肉、彼の骨の骨」。「この奥義は偉大です」。主は、新しい人間性の形成者。

IIペテロ1：4で、私達が「神の御性質にあずかる者」とある。

肉体を取られ、救いのわざを成し遂げられた仲保者キリストが、現在持つておられる性質に私達はあずかる者。私達は主から自分達の命、ご性質を受け続けている。

何という恵み！正に、主の一部分、一体とされている！

「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマ（聖霊のバプテスマによる結合）によって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのち（キリストと霊的に結合しキリストからいただく新しい命）に歩むためです」ローマ6：4。

「キリストにつき合わされて」ローマ6：5。

祈り：私達は、キリストの十字架で負われた傷の部分に接がれ、一体となり、

そこから霊的な養分（新しい命、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制）を受け続けている恵みを感謝します！